

働く目的について考える

商学部
経営・流通学科
准教授
菊池 英貴



研究シーズの紹介

本研究は、働く目的について考えること。その目的に我々の信仰が影響していることを究明する。西洋などのキリスト教文化において、プロテスタントの登場が労働観を変え、資本主義経済の発展に強くかかわっていたことをウェーバーらが明らかに

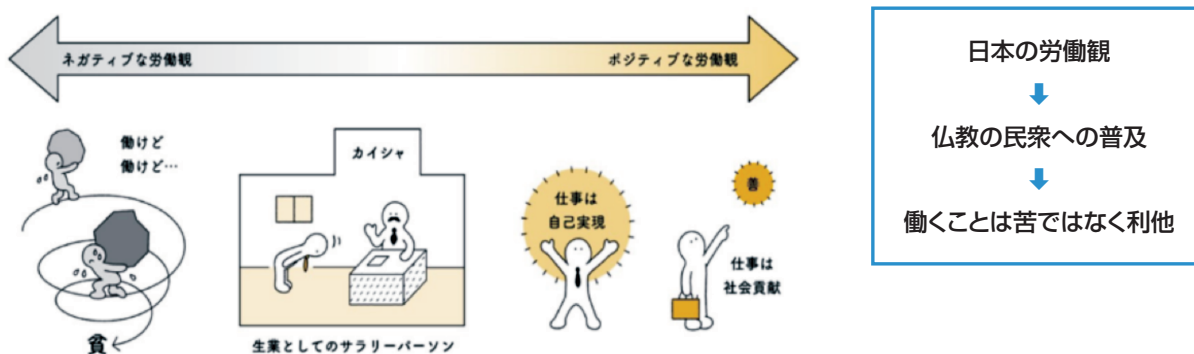
した。翻って、仏教文化の日本では、信仰が労働観とどのように関係しているかを研究する。いわゆるグローバル基準ではない、日本の働き方があることを研究する。



信仰と労働観

● グローバルでない日本独自の働き方の効果について

現代、個々の労働観は多様化していく



期待される活用シーン

● 働くことが嫌なことであるという
キリスト教的労働観



仏教ではもともと労働は苦痛ではない



ウィキノミクスのようにみんなの知恵を出している

● 嫌なことをさせるには動機づけ
(ご褒美の提供) が必要



本来から持っている意欲を引き出せばよい

その他の研究テーマ

「動機づける」から「意欲的にはたらく」へ